

報 告

近畿病院図書室協議会第106回研修会

研修部

日時：2005年2月2日（水）10：00～16：00

場所：住友病院

プログラム：

1. 新しい専門職「医療情報技師」について
鈴鹿医療科学大学医用工学科教授
河村徹郎氏
2. 住友病院図書室紹介
住友病院医学図書部司書 松本純子氏
3. 糖尿病の今昔
住友病院健康管理センター長 清水孝郎氏
4. 藍野学院における図書館利用
藍野大学中央図書館司書 増田 徹氏
5. 図書室はかけがえのない情報源
緑風会病院リハビリテーション科
理学療法士 加藤紀仁氏
6. 意見交換会
参加者数：29名（会員24名、会員外5名）

〈医療情報技師〉

病院への「電子カルテ」導入など、医療情報システムのIT化は加速の一途をたどっており、2005年4月からの個人情報保護法施行が目前に迫っている状況下、私たち病院図書館員とて無関心ではおれない。病院図書館のIT化は病院のIT化に置き去りにされることなく同歩調で進められていくことが理想的と思える。なぜなら、病院内で日々発生する個々の「医療情報」に携わる医療スタッフと、出版物の形態で共通の認識として社会に浸透していく「医療情報」との橋渡し役を果たすのが病院図書館員だと考えられるからである。新しい専門職「医療情報技師」の領域を理解することは、おのずと

医療情報全般への理解を深めることになろう。講義の中では「医療情報技師」のテキスト3点が紹介された。

『医療情報 情報処理技術編』

『医療情報 医学・医療編』

『医療情報 医療情報システム編』

日本医療情報学会 医療情報技師育成部会 編
／篠原出版新社／2004年3月出版／各¥3,150
(税込)

〈住友病院医学図書部〉

書籍・冊子体雑誌の整理だけでなく、Online Journal へのアクセスが利用者にとって簡便になるように整備している。NACSISの参加館として全国規模のILLにも貢献している。病院図書館のモデルのような施設を研修会の機会を利用して見学できたことは、何より大きな収穫だった。

〈糖尿病の今昔〉

それまであった「糖尿病」についての認識が、刷新された。わかっているつもりでいても、実は知らなかったことや誤解していたことに気付かされた。今後もこのような「医療の基礎知識」的講義を企画していきたいと思った。

〈藍野学院における図書館利用〉

病院とは異なった教育施設での図書館利用の概要は、大変興味深かった。短期大学から大学への移行による変革にも触れられた。

〈図書室はかけがえのない情報源〉

医師中心の医局図書室から発展してきたという歴史を持つ病院図書館の担当者には、ややもすると見過ごしがちなのがコメディカルの図書館利用である。「図書館に行けば、自身の専門分野だけでなく、その時点の医療界の動向がつぶさにわかる。医療専門職にとって病院図書館はかけがえのない情報源だった。」

〈意見交換会〉

会場施設の都合であまり時間がとれなかったのがとても残念だった。

(文責：中村雅子／大阪府立母子保健総合医療センター)

